

科目名	担当者名	配当	期	単位
刑事訴訟法発展演習Ⅱ (刑事訴訟法発展演習)	松本英俊	3選必	後期	2(1)

■講義内容■

3年次に開講される刑事訴訟法の演習科目である。授業では、手続の各段階における主要な問題について、重要な判例を中心に検討していく。

■シラバス■

<科目のねらい>

刑事手続の各段階における個別具体的な問題を掘り下げて、多角的な検討を行うことにより、具体的な資料・事実に基づく評価・事実認定あるいはその法的判断能力を養成することを目的とする。講義においては重要な判例の検討を中心に、ライティング能力の向上を図るとともに、問答方式による双方向的な対話・討論型の授業を行う。各回の講義計画は以下の通りである。

<科目の内容>

第1回・第2回 任意捜査と強制捜査

任意捜査と強制捜査を巡る諸問題について、重要判例を検討し、各論点を多面的・多角的に議論し、問題の解決を図る。

第3回・第4回 身体の拘束を巡る諸問題

身体拘束を巡る諸問題について、重要判例を検討し、各論点を多面的・多角的に議論し、問題の解決を図る。

第5回～第7回 証拠収集を巡る諸問題

証拠収集を巡る諸問題について、重要判例を検討し、各論点を多面的・多角的に議論し、問題の解決を図る。

第8回 被疑者の権利

黙秘権保証や接見交通権を巡る諸問題について、重要判例を検討し、各論点を多面的・多角的に議論し、問題の解決を図る。

第9回 公訴権

公訴提起や訴因を巡る諸問題について、重要判例を検討し、各論点を多面的・多角的に議論し、問題の解決を図る。

第10回 証拠法の基本原則

証拠法の基礎に関する問題について、重要判例を検討し、論点を多面的・多角的に議論し、問題の解決を図る。

第11回・第12回 伝聞法則

伝聞証拠を巡る諸問題について、重要判例を検討し、論点を多面的・多角的に議論し、問題の解決を図る。

第13回・第14回 自白法則

自白の任意性を巡る諸問題について、重要判例を検討し、各論点を多面的・多角的に議論し、問題の解決を図る。

第15回 定期試験

<教科書>

指定なし

<参考書>